

# クラスター介入事例から学ぶ社会福祉施設 の感染管理

～新型コロナウイルス感染症対策の実際と留意点～

2022年11月1日

上尾中央総合病院

感染管理認定看護師

荒井千恵子 白井由加里

# 本日の研修の内容

1. 新型コロナウイルス感染症の患者発生時に備えた平常時の準備について
2. 個人防護具の使用方法について
3. 新型コロナウイルス感染症患者が発生した場合に行うべき対応について
4. ゾーニングの実施方法および留意点について
5. 感染者が発生した場合の注意点について
6. 個人防護具 着脱について（演習）

# いざという時に戦えるよう、備えが必要

基本的な知識  
標準予防策

トレーニング

マニュアルの整備



ゾーニング

防護具の備蓄

**なぜ必要なのか、理解することも大切**

# 1. 新型コロナウイルス感染症の患者発生時に備えた平常時の準備について

# 感染症の成立



病原体  
(感染源)

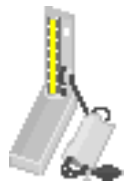
感染した人  
排泄物など

抵抗力の弱い人  
高齢者など

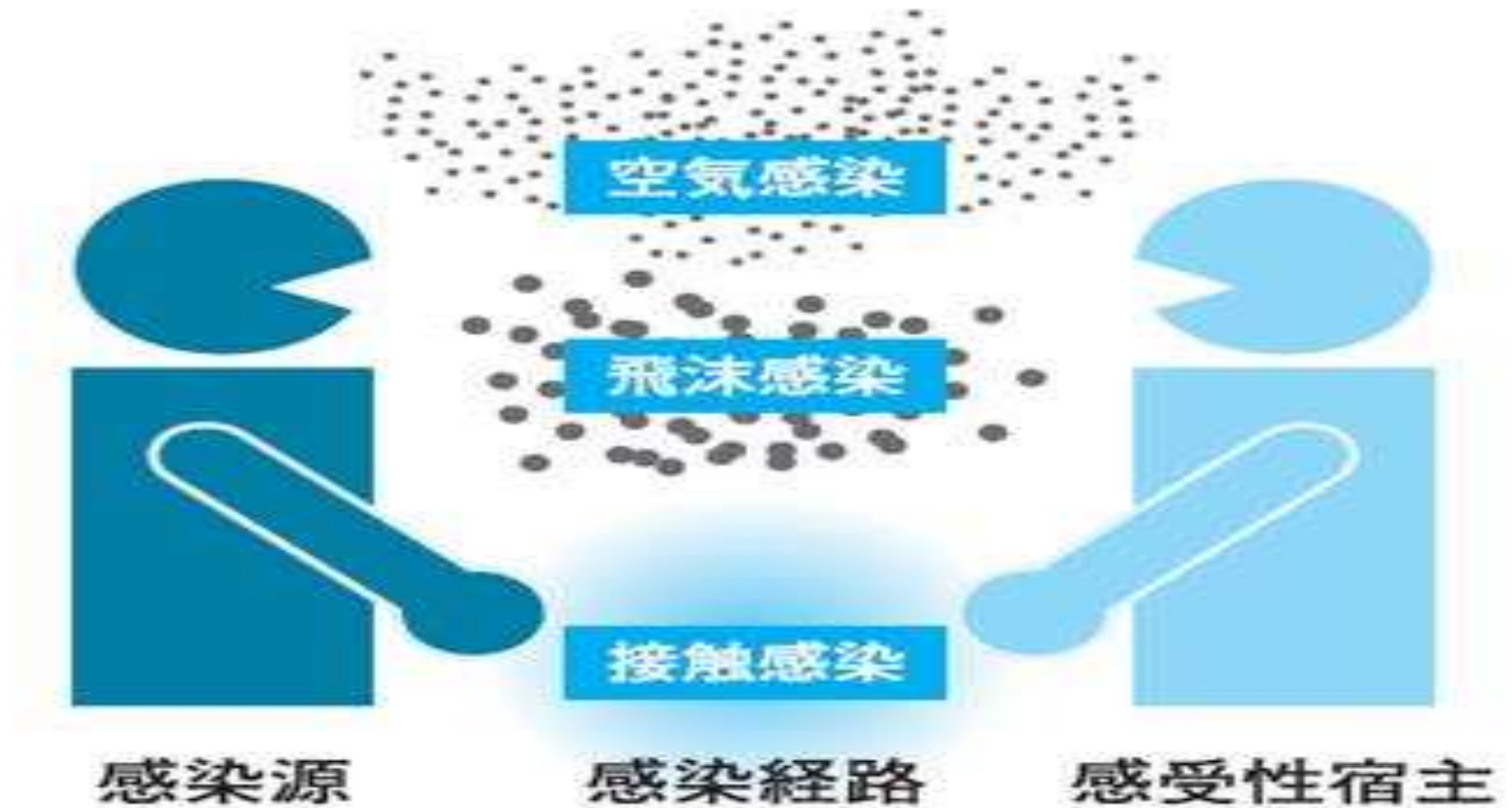
感受性宿主



感染経路



# 感染経路とは



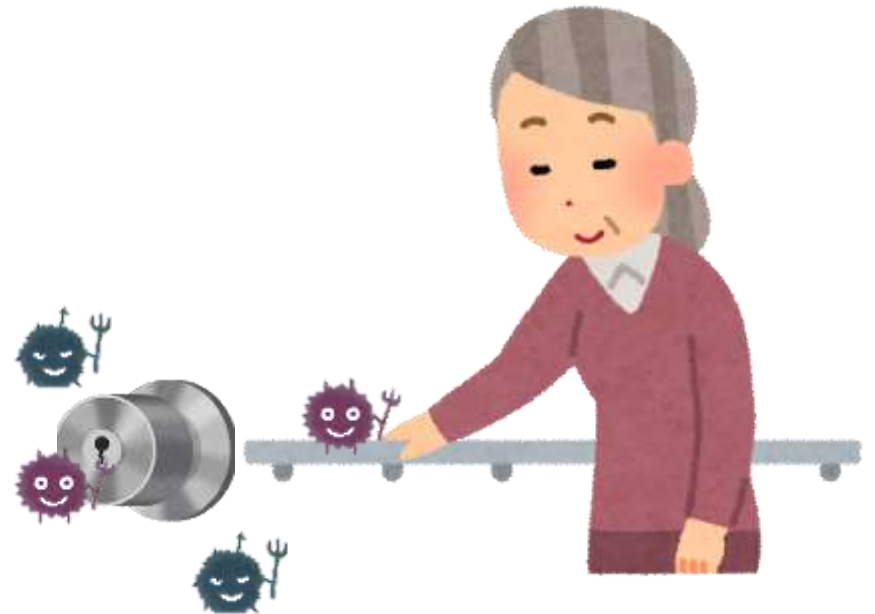
# 感染経路とは



飛沫感染



空気感染



接触感染

# 感染経路の遮断

- 持ち込まない
- 持ち出さない
- 拡げない

標準予防策!!



そのためには何をやる？



# 標準予防策

- **感染症の有無に関わらず、すべての利用者（患者）・すべての医療従事者に適用する**
- **汗を除く**全ての**体液、血液、分泌物、排泄物、傷のある皮膚、粘膜**には病原体が存在しているかもしれないと考えて、対応する

**感染のある・なしに関わらず対策すること!!**



# 標準予防策の具体的な内容

- ① 手指衛生
- ② 個人防護具の使用
- ③ 呼吸器衛生/咳エチケット
- ④ 腰椎処置の際の感染対策
- ⑤ 安全な注射処置
- ⑥ 患者の配置
- ⑦ 患者ケア物品及び医療器具・機器
- ⑧ 環境
- ⑨ 布製品の取り扱い
- ⑩ 血液媒介病原体対策

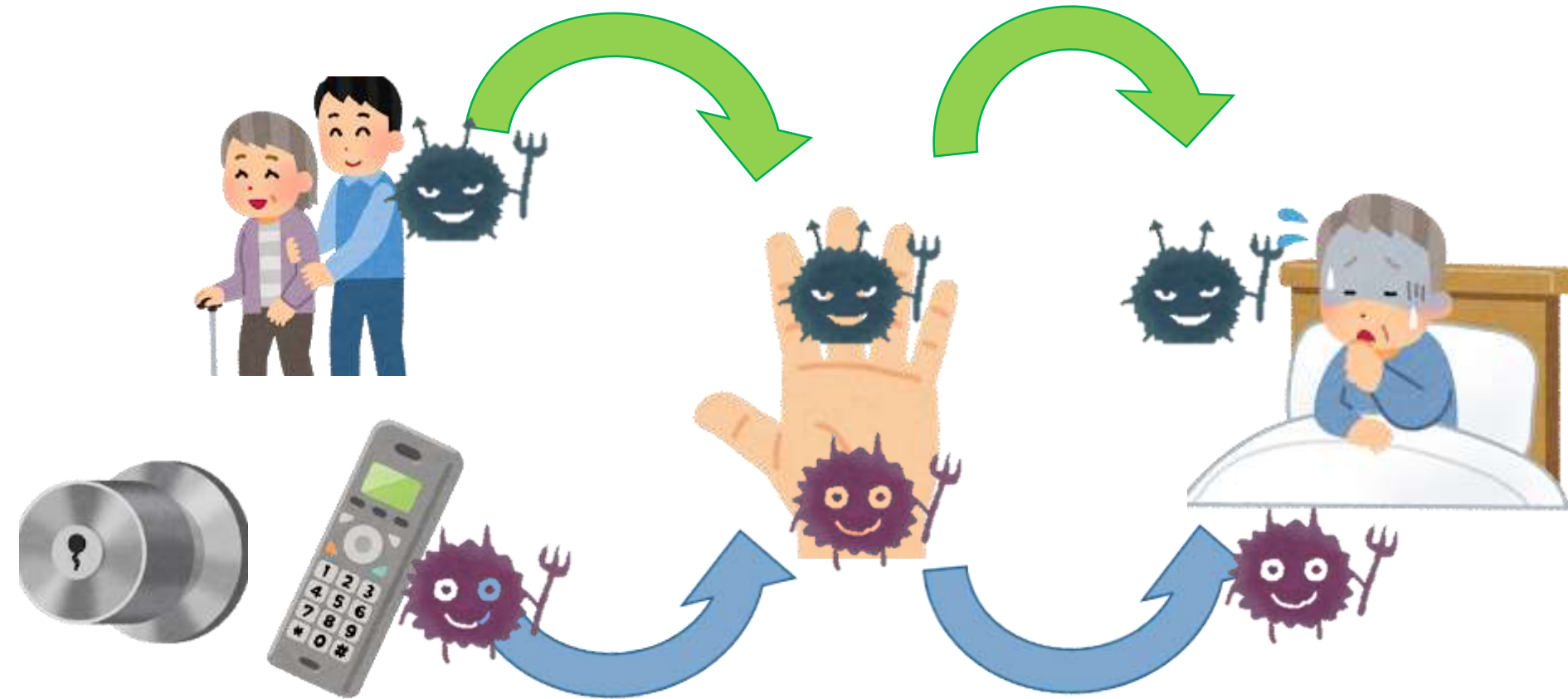
# 手指衛生の目的

- 手指衛生を行う目的  
手指から、よごれや病原体を取り除いて、
  - ① 交差感染から利用者を守る
  - ② 病原体から職員自身を守る



# 交差感染とは

- 医療・介護従事者の手や、医療器具・器材を介して、人から人へ、または環境から人へ病原微生物が感染すること



# 手指衛生の方法

石けんと流水による手  
洗い

手が目に見えて汚れてい  
る場合



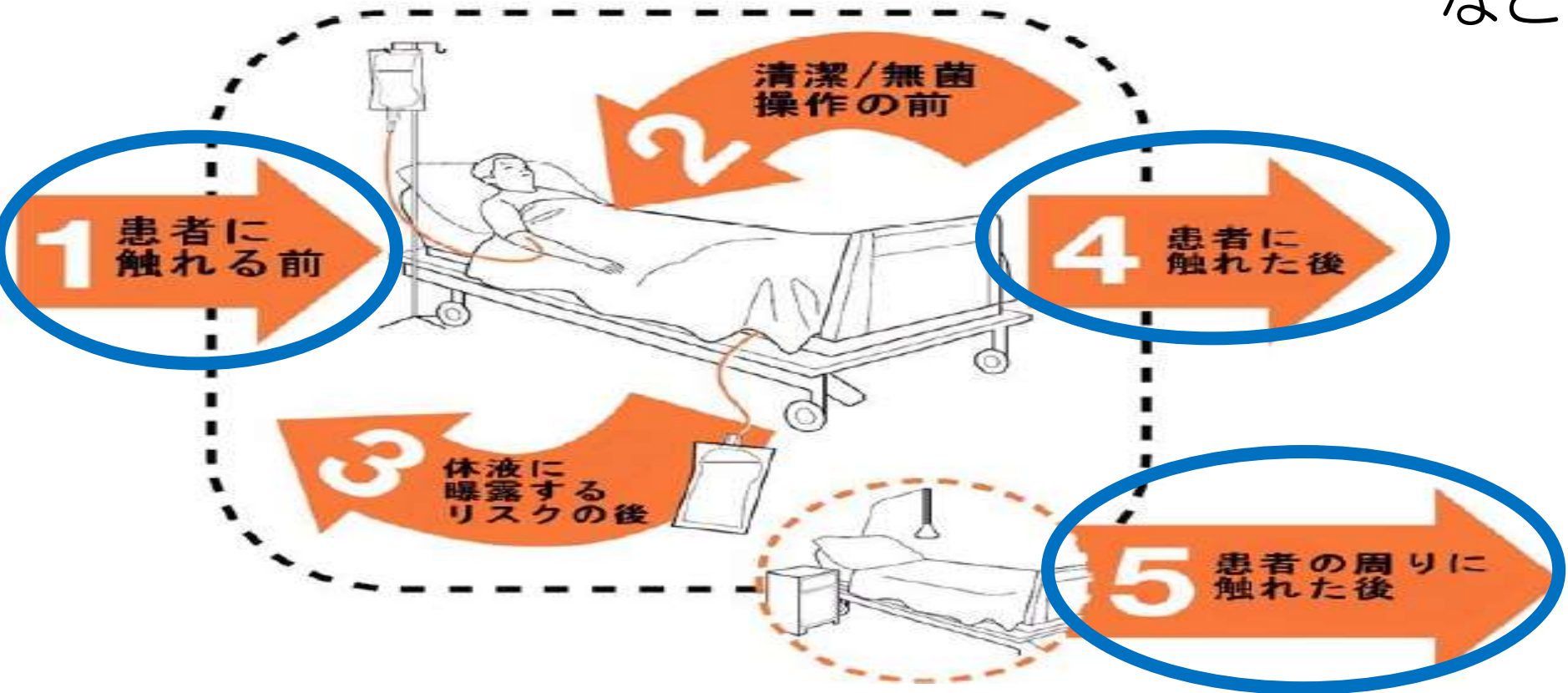
手指消毒剤による  
手指消毒

手が目に見えて汚れてい  
ない場合



# どんなときに 手指衛生？

食事の前後  
排泄の後  
手が汚染した場合  
など



# 手指消毒剤による手指消毒



1.両手の指先を  
消毒する



2.手のひらを  
すり合わせる



3.手の甲に  
すり込ませる



4.指の間を根元まで  
すり込ませる



5.親指を反対の手で  
ねじり洗いする



6.手首にすり込ませる

# 流水と石鹼による手洗い



1. 手のひらをよくこする



2. 手の甲を伸ばすようにこする



3. 指先・爪の間を念入りこする



4. 指の間を洗う



5. 親指と手の平をねじり洗いする



6. 手首を洗う



# 施設の環境

施設は入所者や通所者の  
**生活の場**である

施設内の環境を日常的に清  
潔に保つことが重要！



# 日常清掃

- 原則1日1回の清掃と十分な換気
- 特に高頻度接触面は念入りに
- 通常時の清掃は湿式清掃が基本
- ふき取りは一方向で行う
- 血液や嘔吐物などで汚染がある場合は、清拭消毒を行う



# 良く触れる場所

- 利用者、家族などが良く触れる場所



高頻度接触面  
手の触れる所



- 日常的に見た目はきれいでも、汚染している可能性がある
- 清潔に保てるように日常的に清掃を行う



# マニュアルや手順書の整備

日常のケア場面での具体的な実施手順を示す

「感染管理体制」、「平常時の対策」および  
「感染発生時の対応」等の体制や手順

★ 実際の場面での判断や行動に役立つ情報

「いつ・どんな場合に」「誰が」「何を」「どうするか」等を  
明記すると、具体的に「動ける」ようになる

★ 施設全体の考え方の共通化

# 実践と遵守

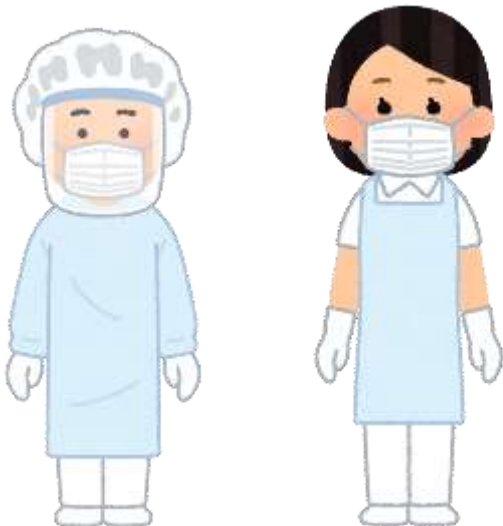
- 周知徹底すること
- 必要時に参照できるような場所に配置する
- マニュアルもしくは手順書は、読みやすくわかりやすく
- 実践できる記載内容であること
- 遵守状況を定期的に確認すること
- トレーニング

# 研修会などの定期的開催

すべての職員が感染症について

正しい知識と感染対策を実施するために、

研修会などを定期的で開催する



# 職員の健康管理

職員は、利用者などと日常的に長時間ともしにする



- 日々の健康チェックと健康管理を行う
- 感染症に罹患したら、仕事はお休み

# 利用者の健康管理

- 施設利用時の健康状態を確認
- 利用者の健康状態を確認  
(外出・外泊から戻った時も)



特に利用者の普段の状態を知ることが大切  
「普段とはちがう」  
「すてきな笑顔が見れない」など

何かおかしい…日常的な違いを早期に発見



# 正しい知識と日常的な感染対策

新型コロナウイルスだけではなく、  
非常時にも対応することができる！



日頃からの感染対策を整備する  
必要がある

## 2. 個人防護具の使用について

# 個人防護具は・・・

過剰に着用すれば、安心ではない！

**重要!**

- 適切な場面で
- 適切な防護具を着脱する



# 個人防護具とは

感染性物質に対する防御のために、職員が  
着用する特殊な衣服や器具



手を守る

口・鼻を守る



目を守る



皮膚や衣服を守る



# 個人防護具着用の注意点

- 防水性のあるものを使用する
- 利用者ごとに交換、汚染したら交換する
- 手袋は、処置ごとに交換する
- 個人防護具の汚染している表面に触れないように、正しい手順で、ていねいに脱ぐ
- 使用した場所（室内・ベッドサイド）で外す

# 個人防護具の着脱順序

## 【着る順序】

手指  
消毒

エプロン・ガウン  
マスク

手袋



## 【脱ぐ順序】

手袋

手指  
消毒

エプロン・ガウン  
マスク

手指  
消毒

# 個人防護具の着け方

# 手指消毒剤による手指消毒



1.両手の指先を消毒する



2.手のひらをすり合わせる



3.手の甲にすり込ませる



4.指の間を根元まですり込ませる



5.親指を反対の手でねじり洗いする



6.手首にすり込ませる



# エプロンの着用方法



1.2.首の輪に頭をくぐらせ、  
腰の紐を後で結ぶ



※襟が大きく開いてしまう場合は、首の輪を後で切り、結んで長さを調節する



※裾はしっかりと広げる

# ガウンの着用

首元が空いていれば、首元を調整する



# マスクの着用方法



1. 耳ゴムを耳にかける<sup>1</sup>



2. 鼻を押さえてノーズワイヤー（針金）を鼻の形に合わせ、プリーツを伸ばして鼻から顎の下まで覆う<sup>2</sup>

# 手袋の着用方法

- 着用前に手指衛生を行う



1.手袋の端を持ち  
手指を挿入する



2.手首まで、  
しっかりはめる



3.片方の手も同様  
に行う

# 個人防護具の外し方

# 手袋の外し方



1.素手に触れないよう注意し  
反対の手袋の端をつまむ



2.内側が表になるように引き抜き  
手袋をしている手に丸めて持つ



3.手袋を外した手の指を、  
手袋の内側に滑り込ませる



4.丸めた手袋を内側に入れたまま、  
内側が表になるように外す

# 手指消毒剤による手指消毒



1.両手の指先を消毒する



2.手のひらをすり合わせる



3.手の甲にすり込ませる



4.指の間を根元まですり込ませる



5.親指を反対の手でねじり洗いする



6.手首にすり込ませる

# エプロンを外す



1.首紐を引っ張って切る



2.上半身部分を前に折る



3.腰の紐を引っ張って切る



4.外側を包むように丸めて捨てる



# ガウンの外し方



1.首紐を引き切る



2.内側から手を入れて  
片袖を脱ぐ



3.反対側も同様に脱ぎ、  
胸当て部分を前に垂らす



4.片手で前面を押え  
ながら腰紐を引き切る



5.中表になるように  
三つ折りにする



6.小さく丸めて廃棄  
する

# ガウンの外し方



1.首紐を引き切る



2.片方の内側に手を入れて引き出し、  
内側に汚染面が入ってくるように小さくまとめる



3.お腹でまとまったら片手で  
腰紐を引き切る



4.小さく丸めて廃棄する

# マスクの外し方



1.両手で耳ゴムを持つ



2.マスクを外し、マスクの表面に触れないように廃棄する

# 手指消毒剤による手指消毒



1.両手の指先を消毒する



2.手のひらをすり合わせる



3.手の甲にすり込ませる



4.指の間を根元まですり込ませる



5.親指を反対の手でねじり洗いする

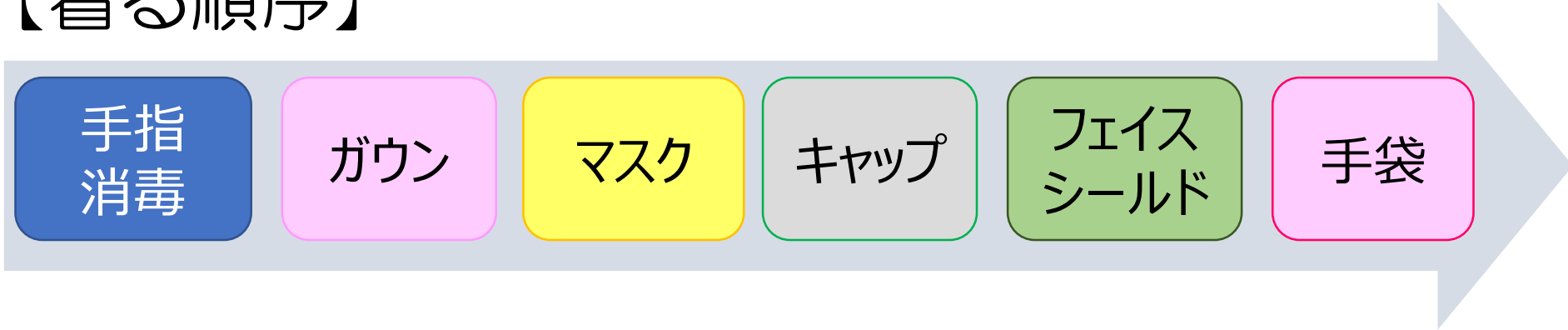


6.手首にすり込ませる

# 個人防護具

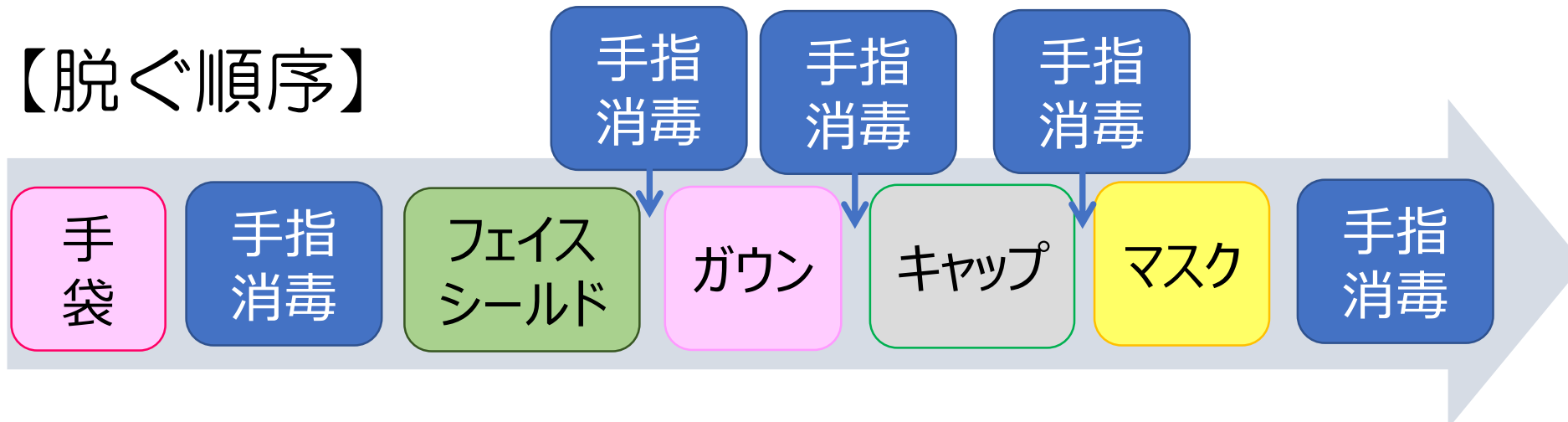
COVID-19感染症もしくは疑われる場合

## 【着る順序】



※ 汚染表面に触れたら、そのつど 手指消毒を行う

## 【脱ぐ順序】



## 【フェイスシールドの外し方】



フェイスシールドの表面に触れないよう  
外す

## 【キャップの外し方】



キャップの表面に触れないよう、  
内側に手を入れて外す

### 3. 新型コロナウイルス感染症患者が発生した場合に行うべき対応について

# 感染者が発生した場合の対応

- 施設内での情報共有、関係各所への報告
- 感染者、濃厚接触者の隔離
  - ✓感染者：個室隔離または集団隔離
  - ✓濃厚接触者：個室隔離  
(やむを得ない場合は集団隔離)

## 【集団隔離する場合の注意点】

- ベッド間隔を2m以上あける
- ベッド周囲のカーテンを閉める または パーティションを設置
- 利用者にマスクを着用してもらう
- 利用者間で個人防護具を交換する



# 感染者が発生した場合の対応

- ゾーニング
- 医療用マスク・ガウン・手袋・フェイスシールド/ゴーグル・必要時キャップを着用して対応
- 使用する物品や器具は居室内に配置し専用化
- 感染者の居室や利用したスペースの消毒
- 食堂での食事やレクリエーション等の、人が集まる行為を控える



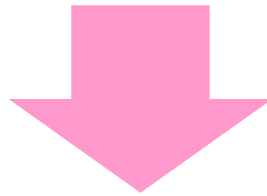
# 濃厚接触者の定義

「患者（確定例）」（「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ。）の感染可能期間（発症2日前～）に接触した者のうち、次の範囲に該当する者

- ✓患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ✓適切な感染防護なしに患者（確定例）を診察、看護もしくは介護していた者
- ✓患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接接触した可能性が高い者
- ✓その他：手で触れることのできる距離（目安として1m）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者

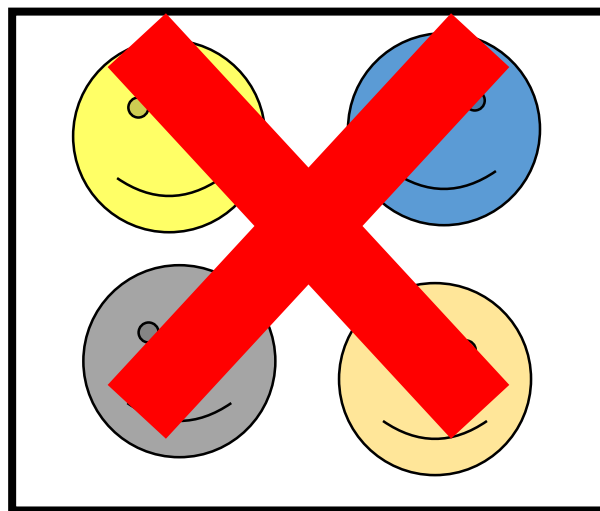
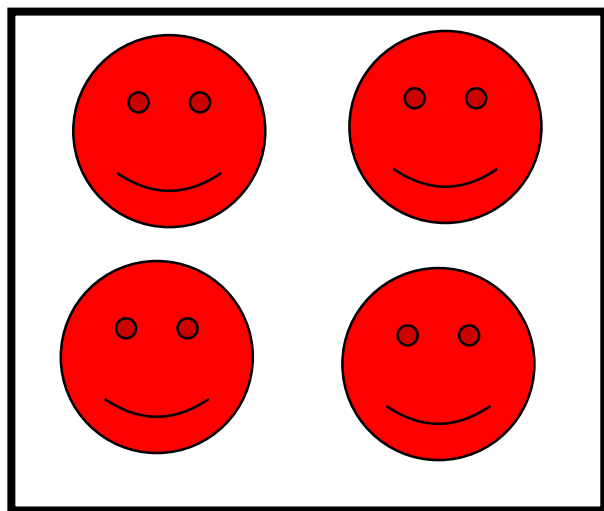
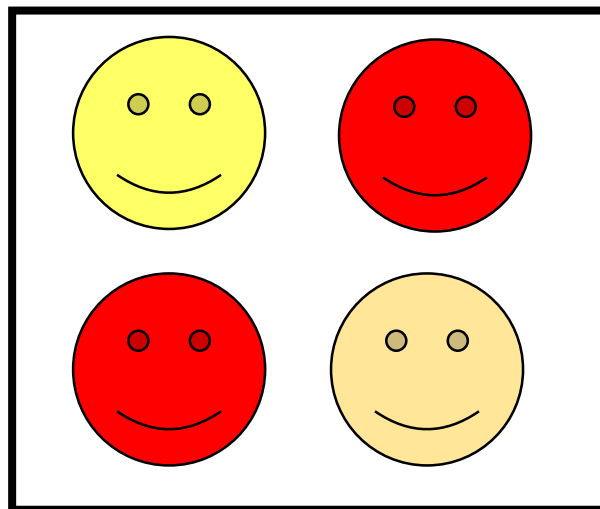
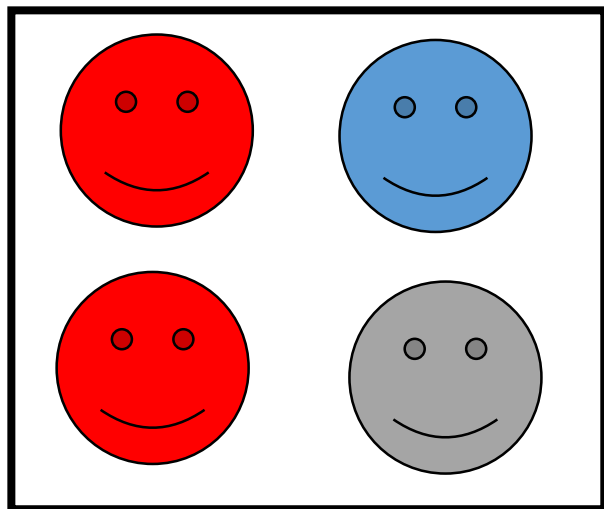
# 濃厚接触者

- 感染している危険性の高い人
- それぞれが、「感染している危険性」に違いがある  
⇒ 「感染している人」がいるかもしれないし、  
「感染していない人」もいるかもしれない

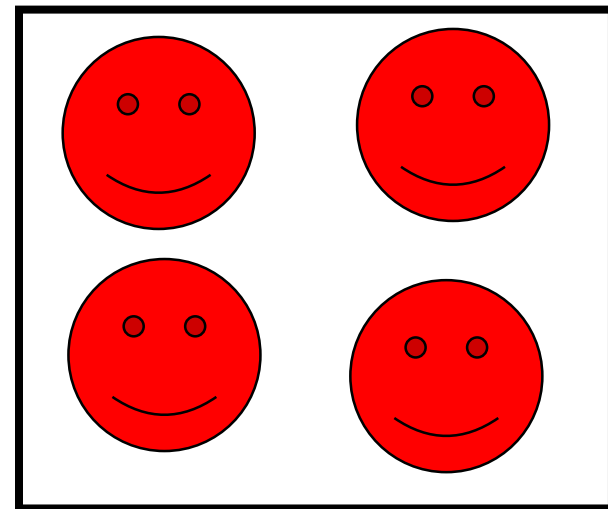
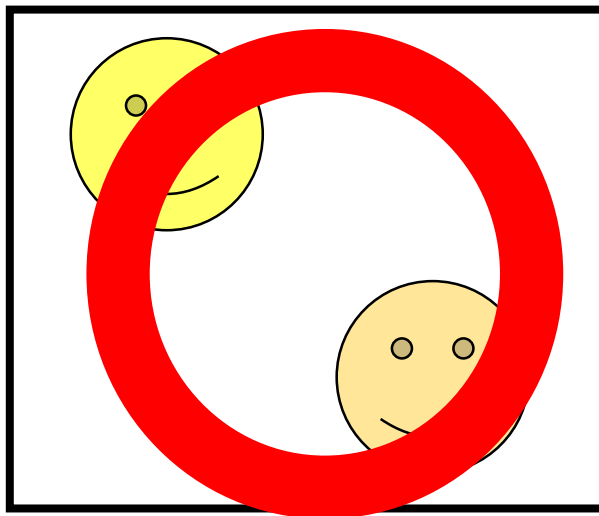
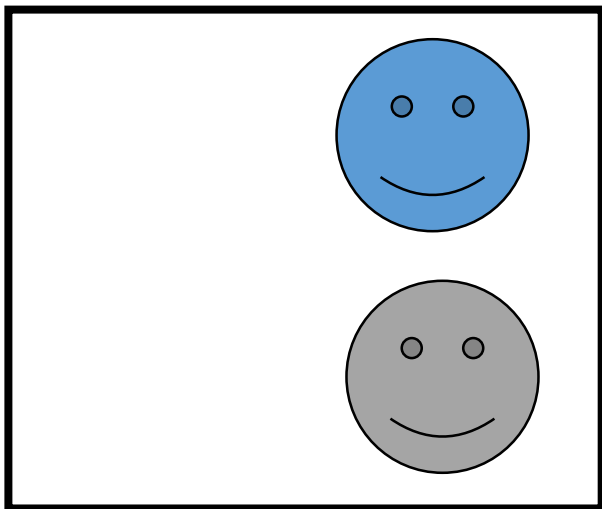
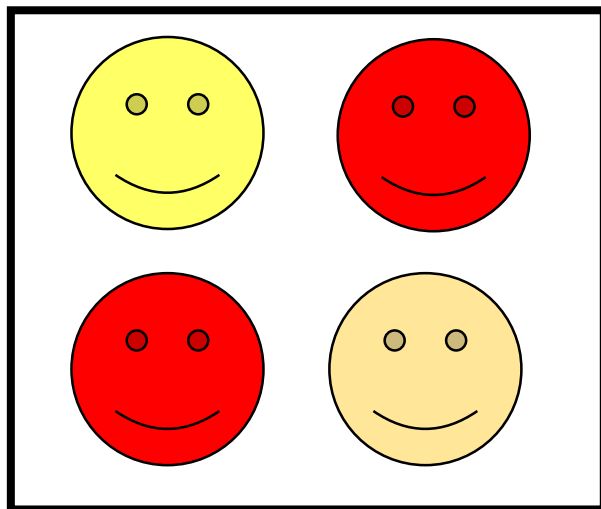
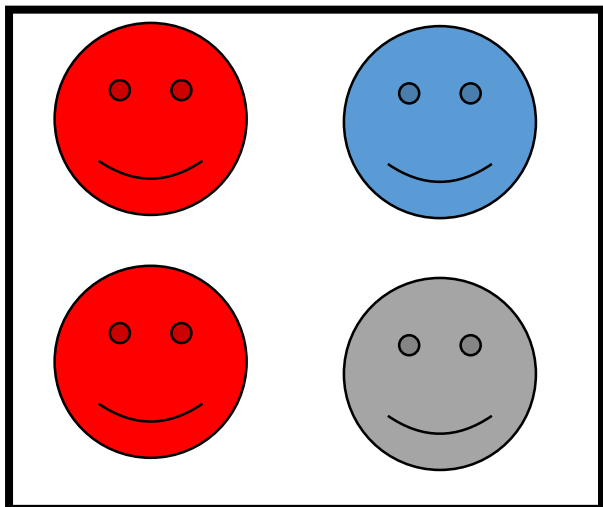


- ✓ 濃厚接触者を同室にまとめることで、  
新たな感染を引き起こす可能性がある
- ✓ 可能な限り、  
別部屋の濃厚接触者と同室にしない  
濃厚接触者でない人と同室にしない

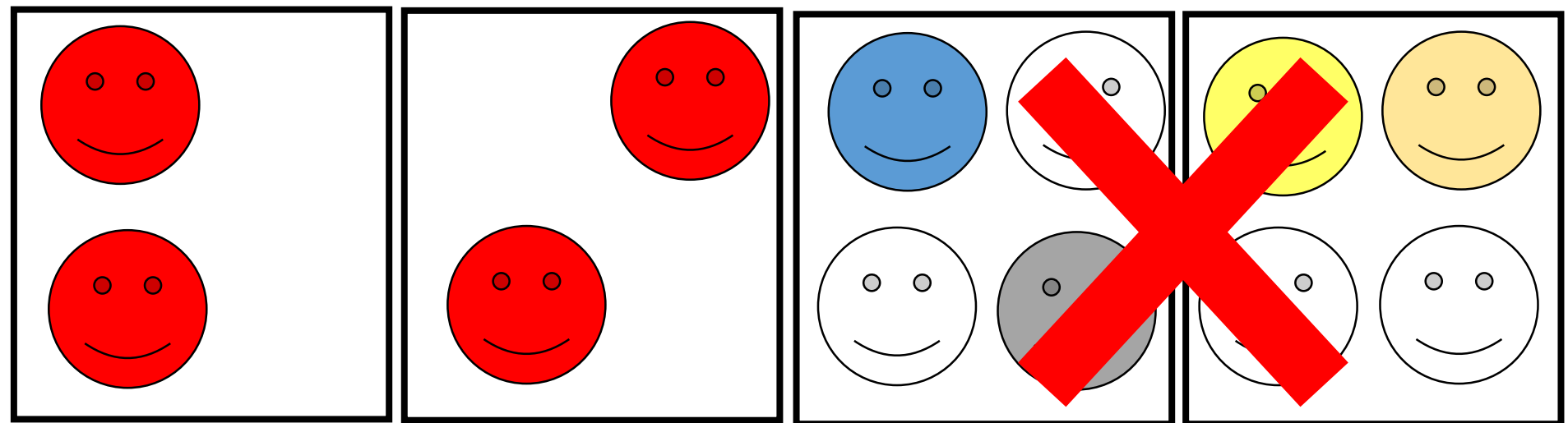
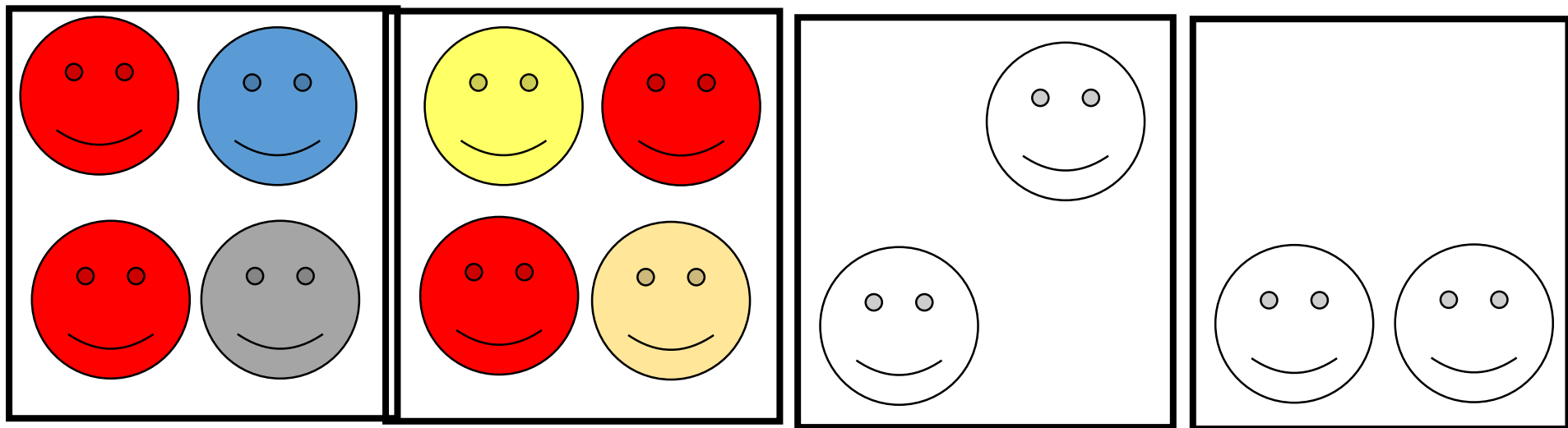
# 濃厚接触者を同室にしない



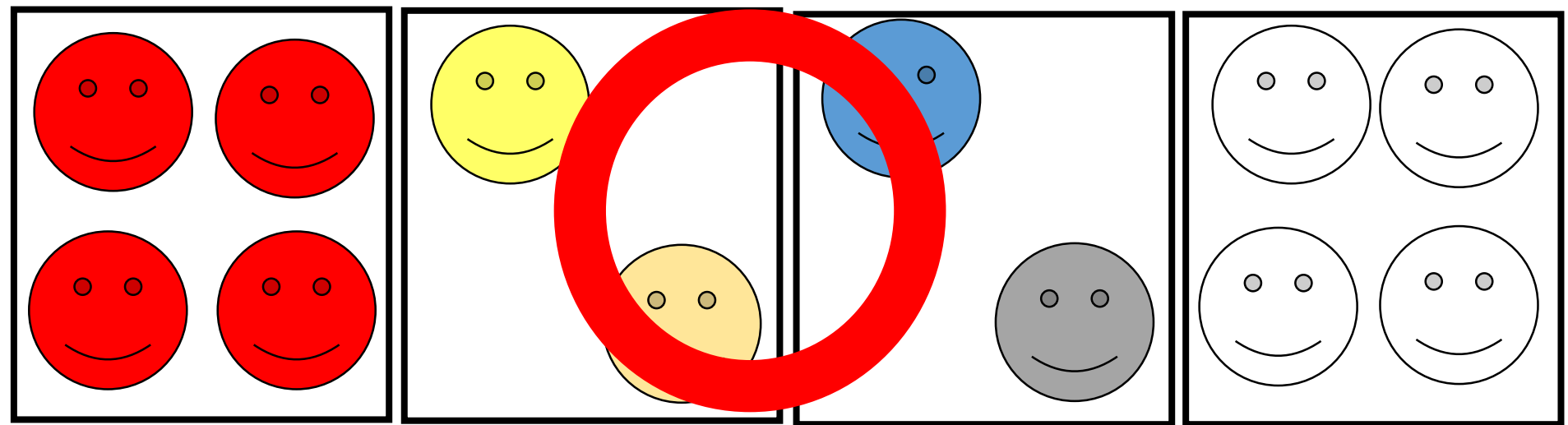
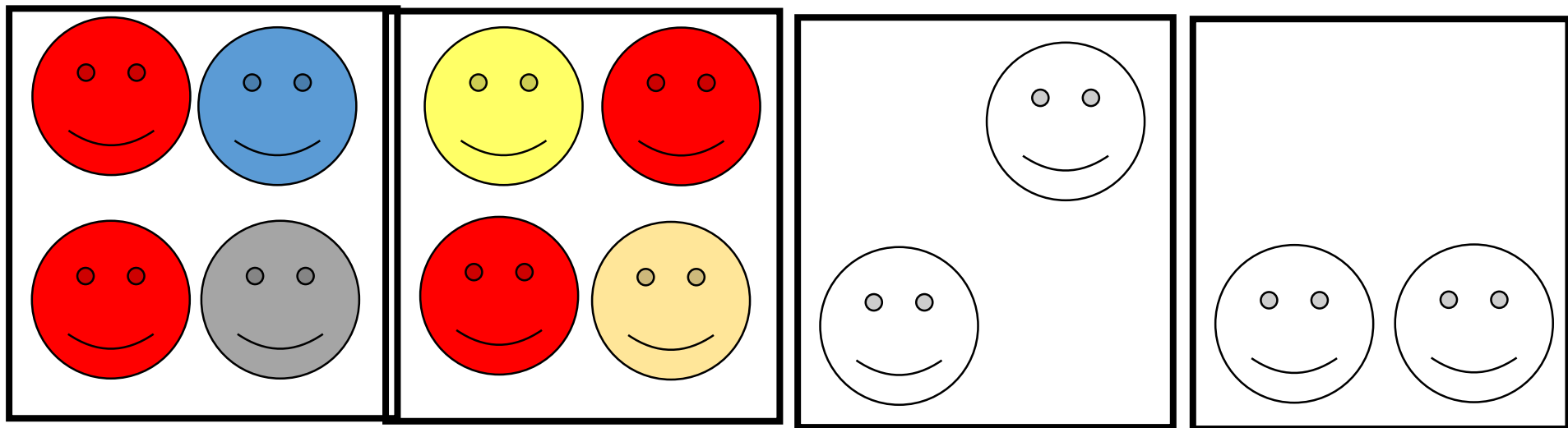
# 濃厚接触者を同室にしない



# 濃厚接触者を同室にしない



# 濃厚接触者を同室にしない



# 新型コロナウイルスに有効な消毒薬

- アルコール  
濃度70%以上95%以下のエタノール  
※なければ濃度60%台のエタノールで可
- 塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）  
濃度0.05%

メーカー	商品名	作り方
花王	ハイター キッチンハイター	水 1 L に本商品 25mL (商品付属のキャップ 1 杯)
カネヨ石鹼	カネヨブリーチ カネヨキッチンブリーチ	水 1 L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
ミツエイ	ブリーチ キッチンブリーチ	水 1 L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)

- 洗剤（界面活性剤）
- 熱水：80℃10分間



# 新型コロナウイルスに有効な界面活性剤※

- 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム（0.1%以上）
- アルキルグリコシド（0.1%以上）
- アルキルアミンオキシド（0.05%以上）
- 塩化ベンザルコニウム（0.05%以上）
- 塩化ベンゼトニウム（0.05%以上）
- 塩化ジアルキルジメチルアンモニウム（0.01%以上）
- ポリオキシエチレンアルキルエーテル（0.2%以上）
- 純石けん分（脂肪酸カリウム）（0.24%以上）
- 純石けん分（脂肪酸ナトリウム）（0.22%以上）

※NITE（製品評価技術基盤機構） 検証試験結果から有効と判断された界面活性剤

## 4. ゾーニングの実施方法および留意点について

# ゾーニング

- ゾーニングとは  
「汚染区域：病原体によって汚染されている区域」と  
「清潔区域：病原対に汚染されていない区域」  
を明確に区分けすること
- 目的  
ウイルスの伝播を防ぎ、施設内・フロア内での交差感染を防止する
- 方法

汚染区域（レッドゾーン）

中間区域（イエローゾーン）

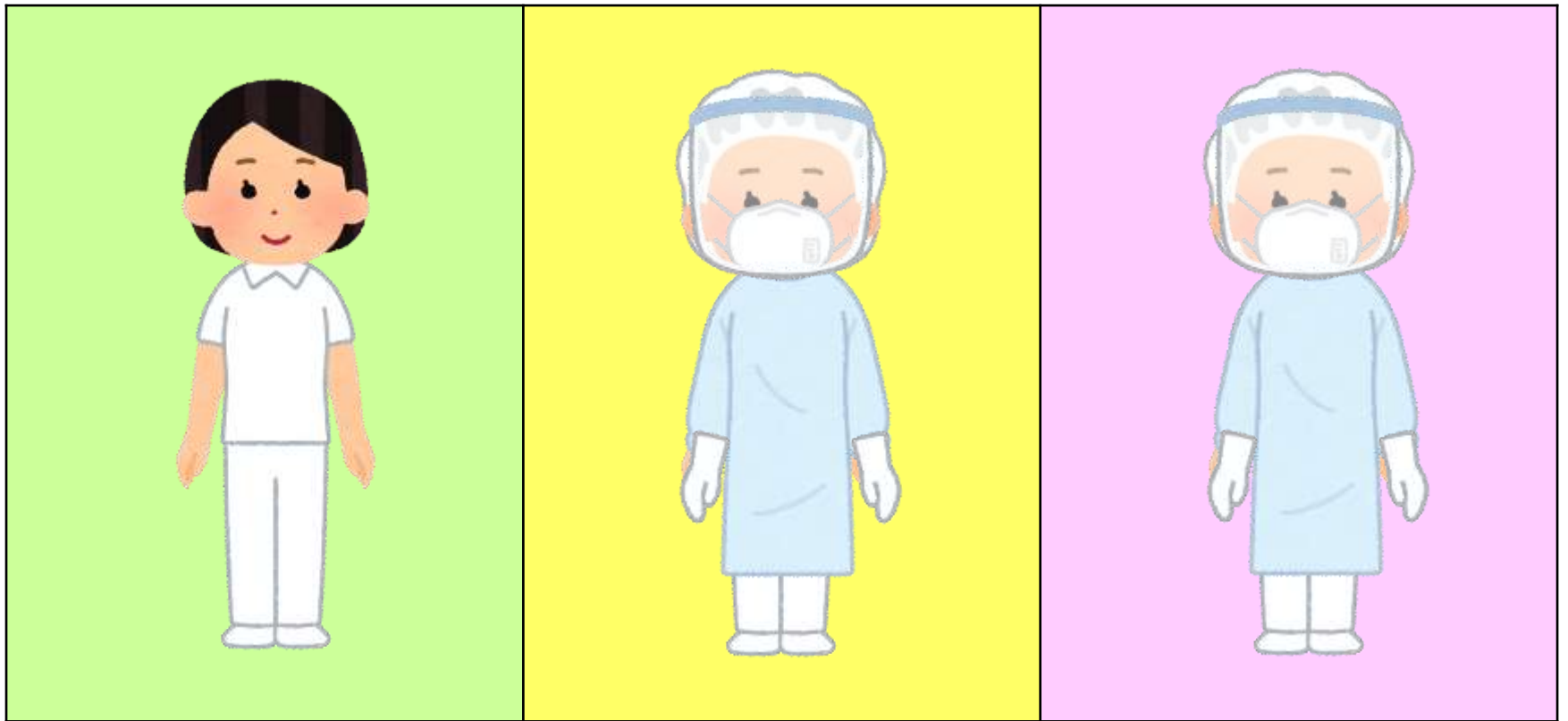
清潔区域（グリーンゾーン） に区分けする

# 区域内の作業と注意事項

色分け	各区域での作業	注意事項
<b>レッドゾーン</b> ウイルスが存在する 汚染エリア	PPEを着用して 業務する	PPE未着用のスタッフは立ち入らない
<b>イエローゾーン</b> 中間エリア	PPEを脱衣する	PPE未着用のスタッフは立ち入らない
<b>グリーンゾーン</b> ウイルスが存在しない 清潔エリア	清潔なPPEを着用する PPE未着用で業務する	イエローゾーンに立ち入ったら、グリーンゾーンに戻らない

# ゾーニング

グリーン ⇒ イエロー ⇒ レッド  
の順番でゾーニングする



# ゾーニング例 部屋単位のゾーニング

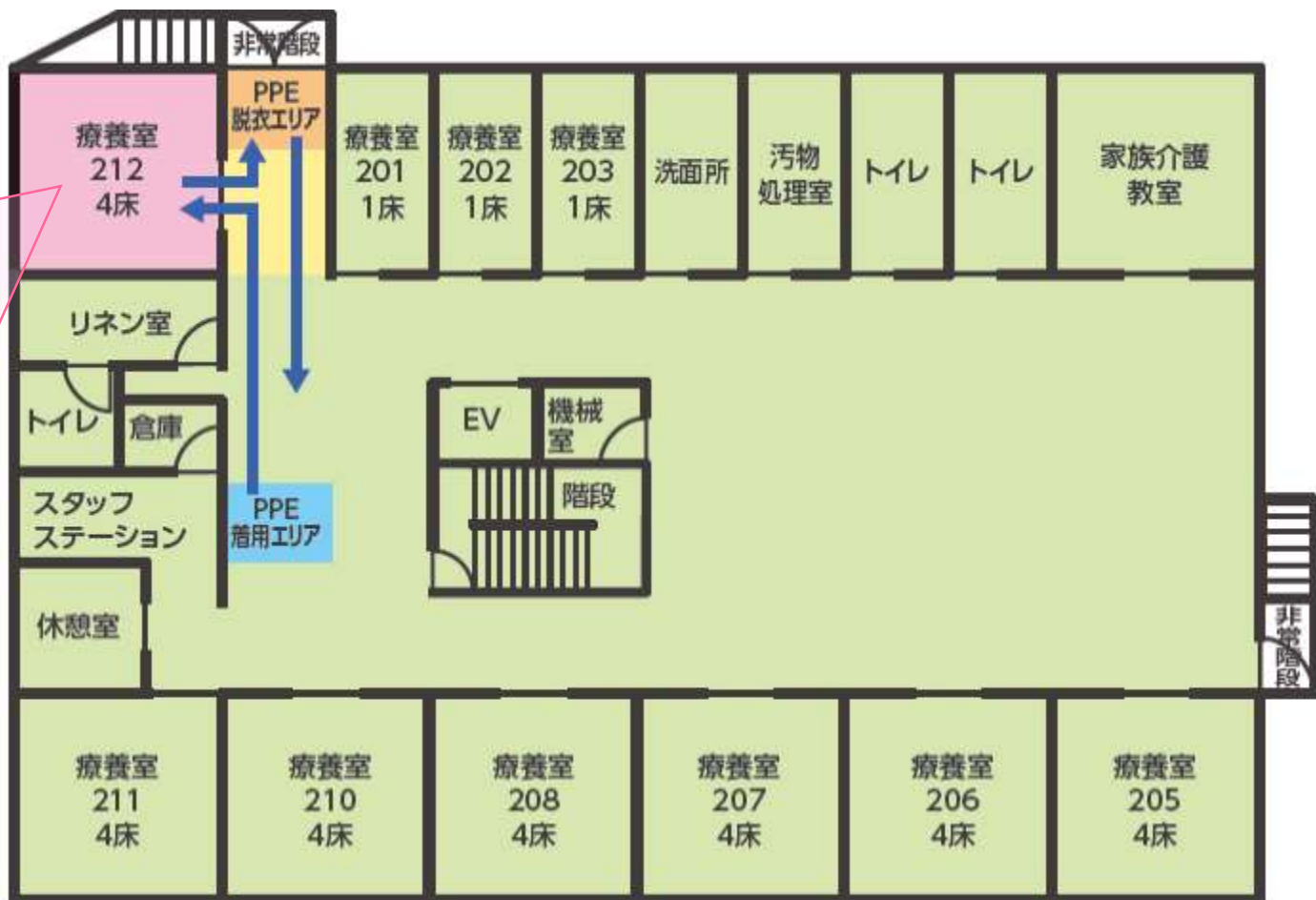
感染性廃棄物  
ゴミ箱



ポータブル  
トイレ



手袋



汚染区域



準清潔区域



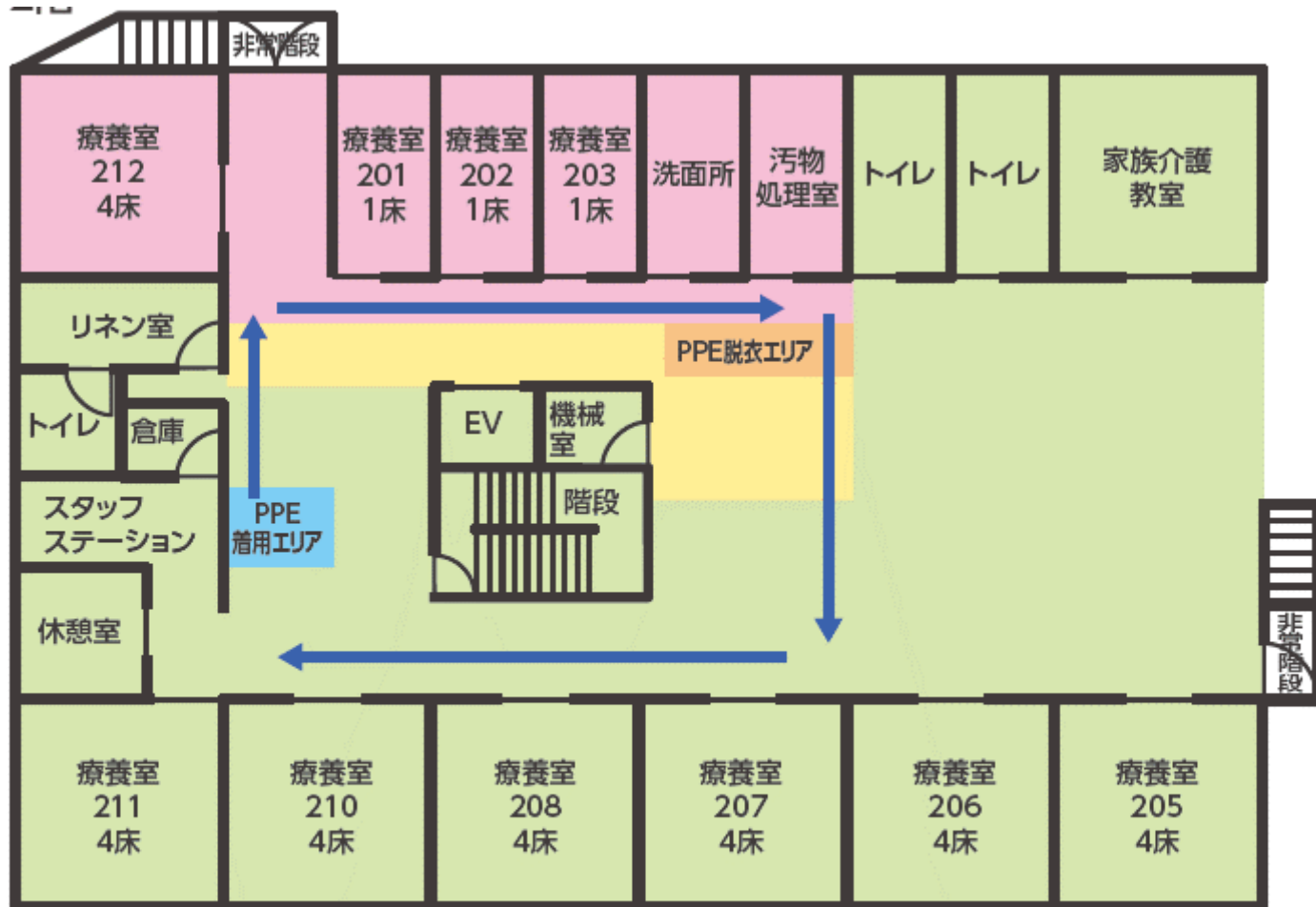
清潔区域

高齢者施設・慢性期病院におけるゾーニングの手引き

<https://med.saraya.com/books/zoning/>

# ゾーニング例

## 複数の部屋を隔離に用いたゾーニング

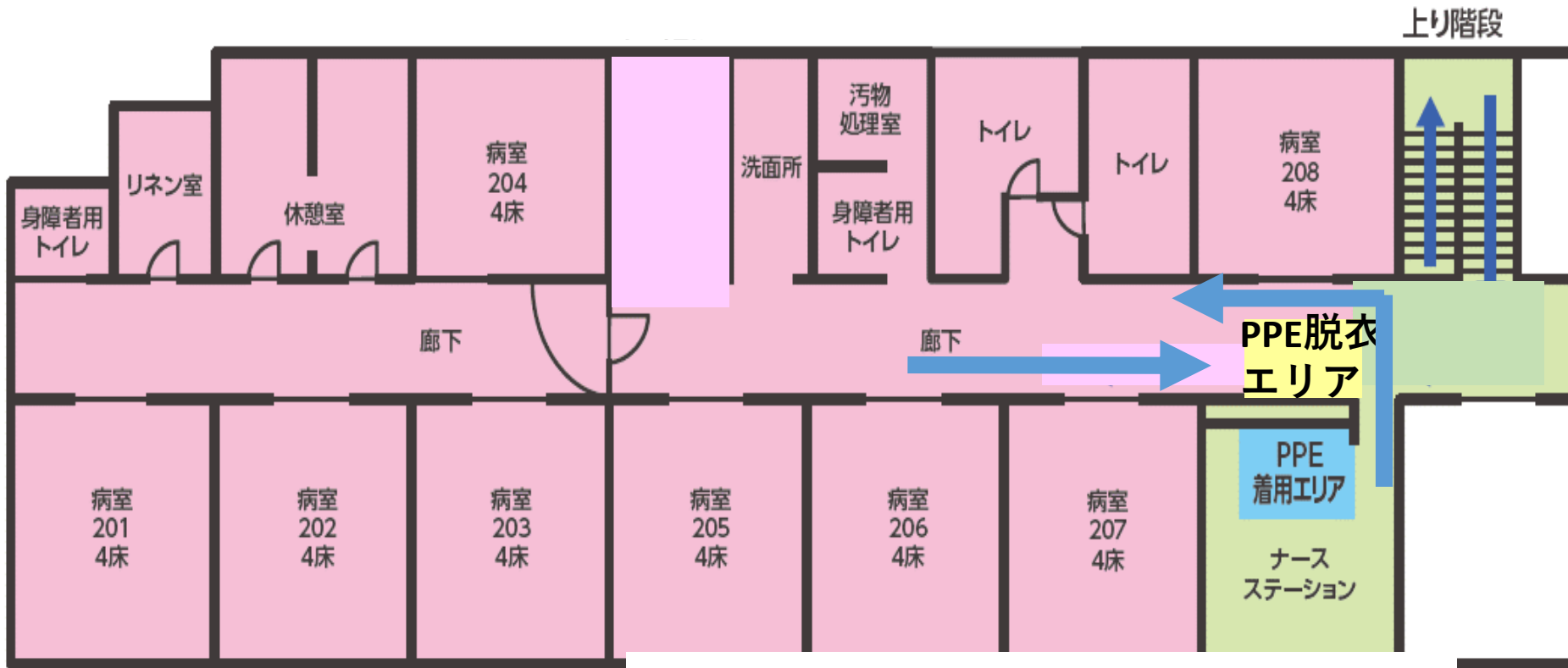


汚染区域      準清潔区域      清潔区域

高齢者施設・慢性期病院におけるゾーニングの手引き

<https://med.saraya.com/books/zoning/>

# フロアー全体を隔離に用いたゾーニング



↑PPE着用エリア/汚染区域↓



汚染区域

高齢者施設・慢性期病院におけるゾーニングの手引き

<https://med.saraya.com/books/zoning/>



# PPE着衣エリアの準備物品



# PPE脱衣エリアの準備物品



足踏み式が望ましい

# わかりやすく表示する



## 5. 感染者が発生した場合のケアの注意点について

# 食事の介助

- 感染者は、居室あるいはレッドゾーン内で行う
- 濃厚接触者は、居室で行う
- 上記以外の利用者
  - ✓可能な限り食堂等を利用せず、居室内で行う
  - ✓やむを得ず食堂等を利用する場合には、対面にならず2m以上の距離をとって配置する
  - ✓介助する職員は、マスク・フェイスシールド/ゴーグルを着用する
- 利用者のムセ込みや咳払いに備えて、利用者の横に位置して行う
- 感染者、濃厚接触者の食器
  - ✓下膳は、トレイごとビニール袋等に入れて手袋を着用して行う
  - ✓食器は洗剤で十分に洗浄し熱水処理（80℃10分間）を行う

# 清潔・衣類

- 介助が必要な感染者、濃厚接触者は、清拭で対応する
- 介助が不要なく、居室内あるいはレッドゾーン内に浴室がある場合には入浴も可能
- 使用後の浴室は、浴室用洗剤を用いて洗浄する
- 衣類、タオル等は、熱水洗濯機（80℃、10分）で洗浄するか、次亜塩素酸ナトリウムに浸漬後、洗濯し乾燥する



# 排泄の介助

- 感染者、濃厚接触者は、居室内あるいはレッドゾーン内のトイレを使用する
- 居室内あるいはレッドゾーン内にトイレがない場合には、ポータブルトイレを使用する
- 使用後のポータブルトイレは、洗浄し、0.05%次亜塩素酸ナトリウム液に浸漬し消毒する



# 観察のポイントとケア

## • 観察

### ✓ 新型コロナウイルス感染症の症状

- 発熱（体温）
- 呼吸器症状（咳・鼻汁・咽頭痛・息切れ）
- 消化器症状（嘔気・嘔吐・下痢）
- 頭痛・筋肉痛・倦怠感
- 嗅覚、味覚異常

### ✓ 食事量、水分摂取量

### ✓ 呼吸状態、酸素飽和度（SpO<sub>2</sub>）



## • ケア

### ✓ 食べやすい、飲みやすい形態、内容の工夫

### ✓ 口腔ケア

### ✓ ADL低下防止

### ✓ 酸素投与や点滴の準備



# 認知機能が低下した利用者への対応

- 感染対策が与える影響
  - ✓ 隔離による環境の変化・生活の変化
  - ✓ PPE着用による影響：  
表情や口の動きがわかりづらい・聞き取りにくい・恐怖
- 特に配慮すべきこと
  - ✓ はっきりとした口調で、ゆっくりと、抑揚をつけて、時にはジェスチャーを加えて
  - ✓ マスクをしていても口角を上げて笑顔で
  - ✓ 否定的な表現を避ける
  - ✓ それまで過ごしていた部屋と似た配置を工夫
  - ✓ 守ってほしい行動の注意を促す工夫
  - ✓ 活動性の変化を認めた際は、バイタルサインを含む全身状態を注意深く観察

# 徘徊する方の対応

- 談話室近くの居室に感染者を配置し、居室と談話室をまとめてレッドゾーンとする
- 感染者と濃厚接触者に徘徊の方がいる場合
  - ✓ 談話室内を2つに区切り感染者と濃厚接触者が立ち入る（徘徊する）場所を作る
  - ✓ PPEを着用したスタッフを談話室内に配置し、感染者と濃厚接触者が交差しないよう見張る



## 6. 個人防護具の着脱について

※ 動画のため資料はありません